

初めて語ることー私のパラダイム破壊

京都大学 山口 栄一教授 退職記念講演会

記

話者 山口 栄一（京大名誉教授 / 産官学連携本部 特任教授）

日時 2021 年1月 8 日(金) 15:00~16:30

場所 京都大学百周年時計台記念館 1 階 百周年記念ホール



講演要旨

1998 年以來 20 年余、私はイノベーション理論・イノベーション政策の社会科学的研究を行ってきました。かつて「科学技術立国」として世界を牽引した日本の科学とハイテク産業の凋落の起源を調べ、イノベーション・ダイアグラムの理論に基いて日本の科学とイノベーション復興に向けた具体的な処方箋を示してきたのです。

ところがふと思い返すと 1998 年まで行なってきた自然科学研究について一度もお話していないことに気が付きました。量子物理学と物性物理学の基礎について深い予備知識があるので、聞き手が面白いと思ってくれるところまで行くのは難しいと思い込んでいたようです。

しかしその純粋物理学研究の軌跡こそ、イノベーション・ダイアグラムを生むに至った必然的原動力です。そこで、この退職記念講演会で「ヒツまぶし人生の第 1 部」に他ならない「私のパラダイム破壊」の物語・全 5 章を初めてお話しします。専門用語は聞き飛ばして、謎に立ち向かう私の熱い思いと創発のプロセスをたっぷりと汲み取ってください。

最後に「ヒツまぶし人生の第 3 部」について、現状と将来もお話いたします。

第 1 章 アンダーソン局在における電子相関効果の理論的研究 (1977~1979)

第 2 章 III-V 族半導体における 2 次元電子系の実験的研究 (1979~1984)

第 3 章 III-V 族半導体における DX センターの理論的研究 (1985~1990)

第 4 章 III-V 族半導体における DX センターの実験的研究 (1987~1992)

第 5 章 常温核融合の研究 (1989~1998)

略歴

1955 年、福岡市生まれ。1977 年、東京大学理学部物理学科卒業。1979 年、同大学院理学系研究科物理学専攻修士修了、理学博士(東京大学)。1998 年まで、NTT 基礎研究所主幹研究員。その間、米国ノートルダム大学客員研究員として 1984 年より 1 年間、米国サウスベンドに在住。さらにフランス IMRA Europe 招聘研究員として 1993 年より 5 年間、南仏コート・ダジュールに在住。2003 年まで、21 世紀政策研究所研究主幹。2014 年まで、同志社大学大学院教授、その間、2008 年より 1 年間、英国ケンブリッジ大学クレアホール客員フェロー。2020 年まで京都大学大学院総合生存学館(思修館)教授。2020 年より現職。1998 年より 2018 年にかけて、5 社のベンチャー企業を創業。